



英ちやん物語

鹿の子

一、名前のいはれ

英ちやん ホントウの名は英三と申します。大正十年十月廿六日生れで、今年數へ年の六つになり三男であります。名はよび易く書き易いといふのが父親が子供の名前をつける第一條件だ想であります。しかしこの父親には偶然か豫定か出生順を表はす事が條件になつてゐるのであります。そして出生年中に於ける國家社會又は一家の記念とする意味をも象徴するのだ想であります。それで此父親は大正二年に生れた長男には正一とつけ大正五年に生れた次男には 皇后陛下行啓の翌日産

れた所から啓二とつけ、大正七年十二月生れの長女には世界の平和を記念するといふので和子とつけたのであります。其筆法で英三といふ名前がつけられたのでせう。それは大正十年三月三日には皇太子殿下が英國に御留學になりその年九月三日に目出たく御歸朝遊ばされた事を御祝賀申し上げまた記念する精神で英三、英明なる殿下が英國に御留學遊され三の日に御出發御歸朝と三男とを重ねた三であるといふのだ想であります。かく父親ではよく考へた名稱でありませうがふだんは英三と呼ばれず自分でも英ちやんで通つてゐます。英

ばんくといへば、御機嫌が悪く英坊主といへば返事いたしません。四歳の暮兩親と共に京阪に旅行したときばんくと呼ばれたのが慣れない爲にうれしくないのだ想です。それでばんくも坊主も氣に入らずいつも英ちやんで威張つてゐます。

二、幼稚園

「英ちやん、幼稚園へ行きたいの」と問へば

「幼稚園へ行きたい」と答へます。「どうして幼稚園へ行きたいの」と重ねて尋ねると「どうしてでも」とすましてゐます。「どこの幼稚園へ行くの」と尋ねますと只「幼稚園行くの」とすましてゐます。

英ちやんには幼稚園がたくさんあると思はれませんが、只東京女子高等師範學校附屬幼稚園を二回許り見たばかりですから他にも幼稚園があることなどは考へてゐません。幼稚園へ行きたいといふ事も附屬幼稚園を見て來てからのことでもあります。

「幼稚園つてどんなところ」と尋ねてもお茶の水の幼稚園」と答へる位であります。幼稚園の觀念も自分の見たお茶の水の幼稚園しか考へに浮ばないのでです。それで幼稚園へ行きたいのは幼稚園には自分と似寄りの子供が澤山ゐて遊ぶことが出来る位に考へてゐるのでありませう。「英ちやん幼稚園へ行つて何をするの」といつても、「にやもく」といつて笑つてゐる所を見ますと幼稚園生活が分つての話でもありません。彼は兄弟が小學校に出かけた後に母親の私と女中を相手に家庭内で遊ぶのであることが無聊でならないのでせう。

玩具をいちつて遊ぶ事も庭に出てトンボやハチを相手にし、ハナや葉を材料としての獨り遊びも好奇心を満足するには相違ありません、生物無生物の見分もなく皆な友達である事で満足が出来なくなつたものでせう。群居本能が現はれ漂浪本能が現はれたのが四歳の終り頃から、姉が小學校

に入學するやうになり遊び仲間がなくなりお隣りには同年齡のお子供さんがゐなくなつてからは著しく明白になつて來ました。私が氣分が悪くて一寸横になつて居りますと今まで遊んでゐた手を止めて枕元に來て「お母さん眠つてはいやよ」といつて私の眼を開けるのであります。若し女中が用足しに外出すると「英ちやんも行つていゝ？」と必ず尋ねます。そして喜んで女中について外出いたします。外へ出たくて仕方がないと見えます。生れて一度もたいした病氣をしたことがないのでありますから元氣に満ち／＼てゐるので外出を好むのも自然でありませう。それで顔は眞黒になつて生き／＼してゐます。一度幼稚園を見てから行きたくて仕方がないがまた年が足りないから行かないと申しますと「イクツになると行けるか」と尋ねます「六ツになれば幼稚園へ行ける」と申すと「嬉しいな」といつて喜んでゐます。「イツ六つに

なるの早く幼稚園に行きたいな」とお正月を待ちましたのも幼稚園に行けるといふ希望が一つ加つてゐるのであります。六つになるとお正月からでも幼稚園に行けるものゝやうに考へて楽しんで居りました、しかしお正月が來て六つになつてもまだ幼稚園に行けないのでこの頃は甚だ不平であります子供には子供連れの遊びが必要であり子供が子供の生活をなすために幼稚園が非常に必要となる事をこの頃は私は痛切に考へさせられてゐます。幼稚園へ行かなくとも年寄りがあるから大丈夫であること考へることも附添の女中があるから幼稚園へやる必要がないといふのも本當に子供の生活を考へないからの誤解であることがしみつゝ分りまゐります。私などは英ちやんのために成るべく子供となつて遊んでやつてゐる積りでありますがそれほどうしてもこしらへ事になると見えます。子供は子供同志遊ばねば本當の生活が出來ますまい。

子供の生活は大人相手では出来るものでありませ
 ん。老人や女中では子供に不満足なのは勿論でせ
 う。老人は體のきかない點は子供に似てゐまして
 もそれはどこまでも大人でありませうし、女中は
 主人の機嫌をとるために子供の當然の活動を束縛
 することが多いからで子供にはどうしても本當の

遊び相手にはならないのでありませう。極く近寄
 つた年齢の子供が集つて自由に遊ぶことの出来る
 幼稚園が子供の天國であり樂園であることがこの
 頃の英ちゃん（ママ）の生活を見てつくづく考へさせられ
 また教へられた私の感想であります。

○あくびの効

近色來々の健康法が宣傳されるが、米國の一ドクトルの提唱する欠伸利用の健康法は餘り知られてゐない。例へば、
 猫や犬が目なまますと必ず欠伸や伸びをするのは誰も知つてゐる。

欠伸や伸びは、つまり停滞した血管を擴張して血行をよくすることである。欠伸は實に肺臓における伸びであり酸
 素の缺乏を補ふの効果を與へ、筋肉の弛緩と呼吸器系の調節に資益するところが多い。

一ドクトルの提唱する欠伸健康法といふのは、先づ仰臥してゐて莞爾と笑むことに始まり、次に數回の深呼吸をして
 から腕を出来るだけ下方へ伸べ、肺臓の底から聲を張りひろげ深呼吸をして腕と脚を交互に伸べ掌で胃を摩擦し體を前
 後にゆすつて首を前後にゆるく振るのである。これは欠伸を分解した結果に外ならない。